

うどの No.2 2019.11

三重県埋蔵文化財センター

鶺殿西遺跡（第3次）発掘調査



【6区・溝2】東から撮影

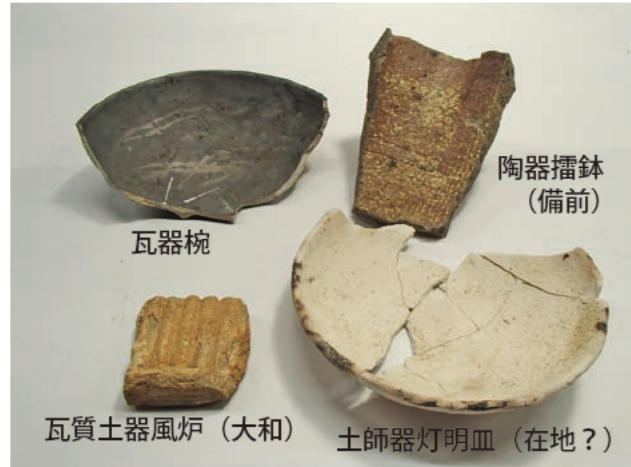
鶺殿西遺跡は、熊野川左岸の自然堤防上に立地しています。遺跡の西にある丘陵には、熊野川や太平洋を一望できる鶺殿城跡があります。熊野川の河口付近には、新宮津とよばれた港があり、熊野三山（熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社）との経済流通の拠点として深く関わっていたとされています。

また、この辺りには、鶺殿荘という荘園があり、熊野三山と関係の深い新宮別当の一族である鶺殿氏などがいました。鶺殿氏は13世紀から14世紀（鎌倉時代から室町時代）にかけての文献にも登場し、熊野那智大社の執行（長官）も務めていました。鶺殿西遺跡の西にある貴祢谷社には、鶺殿氏の墓とされる14世紀以降の石塔があります。貴祢谷社は熊野神が鎮座していた場所ともいわれる古い神社です。

調査では、13世紀から15世紀と考えられる掘立柱建物や区画溝などが確認されました。これまで文献などから断片的にしか知ることができなかった鶺殿の中世が明らかになってきました。



鶺殿西遺跡周辺の遺跡



南伊勢：土師器皿・鍋
瀬戸美濃：山茶椀、陶器椀・播鉢・天目茶椀など
大和：瓦質土器風炉
備前：陶器播鉢
この他にも、明（中国）から輸入された青磁や白磁など。

鶺殿に搬入された物（中世）



南伊勢：土師器焙烙
瀬戸美濃：陶器椀・皿・播鉢・徳利・仏餉具など
中讃：土師器鍋
常滑：陶器甕
堺：陶器播鉢
播磨：土師器焙烙
肥前：磁器椀・皿・猪口・紅皿など

鶺殿に搬入された物（近世）

調査成果（平成30年度・令和元年度）

【建物について】

13世紀から15世紀の掘立柱建物が8棟みついています。その内の1棟は、東西6間（12.8m）、南北5間（10.7m）ある大型のもので、これらの建物の中でも最も高い安定した場所にあります。大型の掘立柱建物は15世紀後半です。

【区画について】

中世の溝は11本みついています（11月25日時点）。その内の溝1と溝2は、南北100m以上、東西50m以上の大区画を構成していることがわかりました。溝の大部分は15世紀後半頃に埋まっていますが、17世紀から18世紀頃に再掘削されています。

【出土遺物について】

多様な地域の焼物が出土しました。これらは、国内外の生産地から海上交通を介して鶺殿に運ばれたものです。

【鶺殿氏との関連について】

調査でみつかった遺構は13世紀から15世紀を中心としています。大型建物や大きな区画の存在からこの時期に活動した鶺殿氏に関連する人物のものと考えられます。

調査名：鶺殿西遺跡（第3次）調査

調査面積：5,052㎡

原因事業：一般国道42号新宮紀宝道路建設事業

調査主体：三重県教育委員会

調査担当：三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 多気郡明和町竹川 503

TEL：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035

E-mail：maibun@pref.mie.lg.jp HP：http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/

熊野整理所 〒519-4325 熊野市有馬町 4621-32

TEL：0597-89-5570 FAX：0597-89-5572

調査期間：平成31年4月23日から令和2年1月24日

経費負担：国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所

【道路状遺構】 ※1区

道路の側溝と思われる2本の溝が見つかりました。溝の長さは17m以上で、道路の幅は1.8m程になります。溝が埋まった時期は、出土遺物から15世紀後半頃（室町時代）と考えられます。

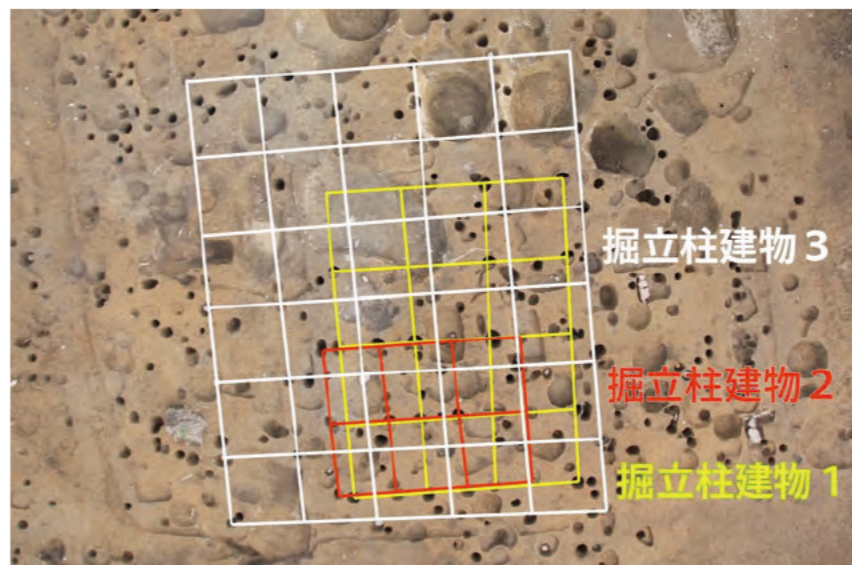
道路状遺構は、現在の道とほぼ平行しており、熊野川の北岸に向けてまっすぐに伸びています。この先に渡し場があったのかもしれませんが。



【大型の掘立柱建物】 ※平成30年度調査

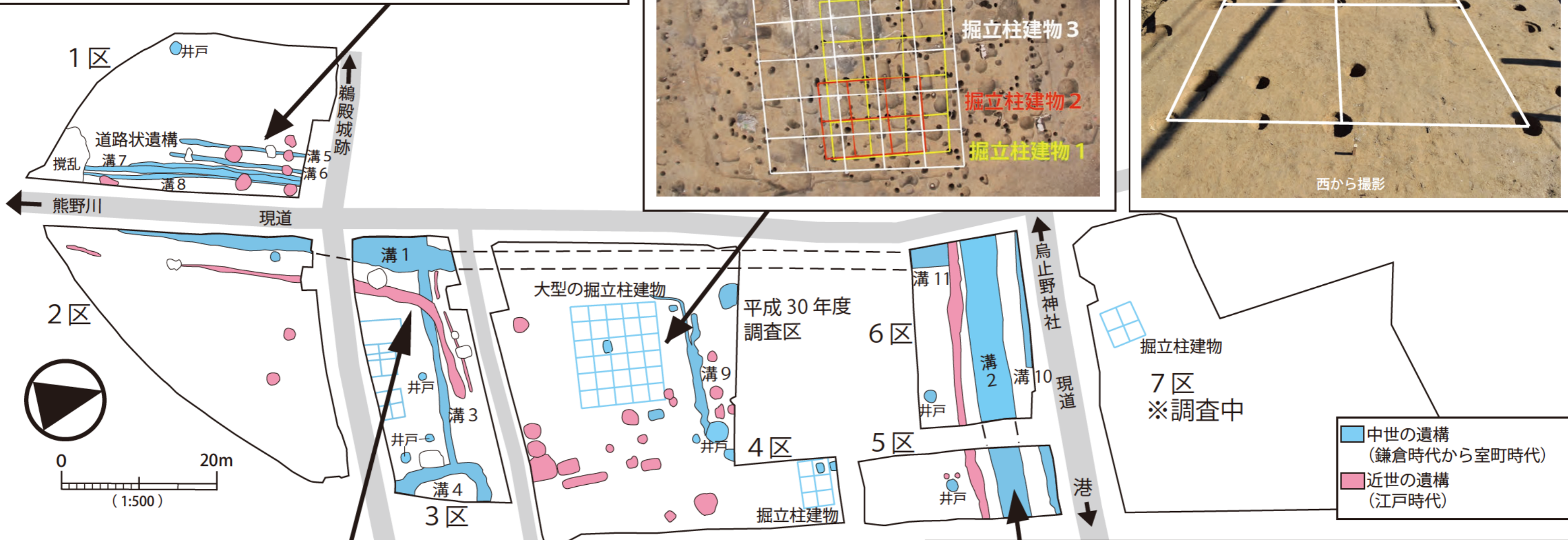
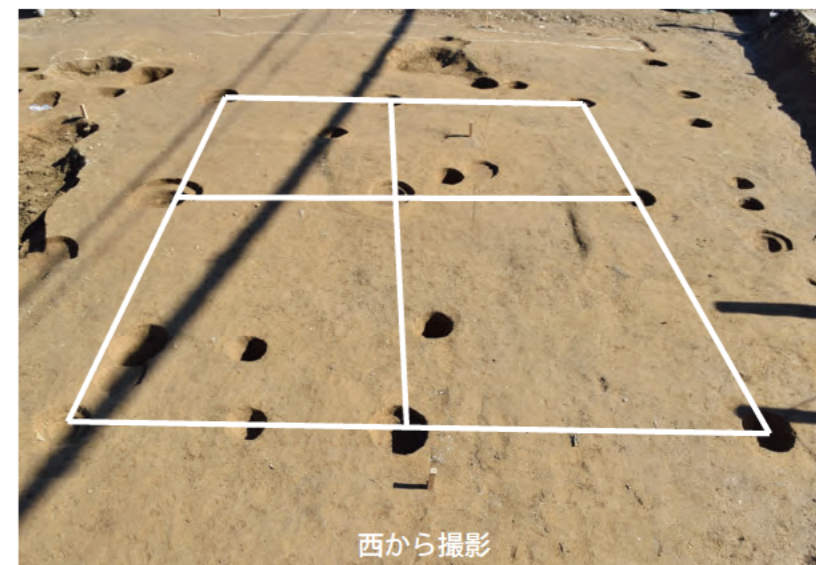
掘立柱建物1→2→3の順番に建てられていることがわかりました。掘立柱建物3は、東西12.8m、南北10.7mの大きさです。建物は、比較的高く、安定した水はけのよい場所にあります。

大きさや土地条件から、鶴殿氏など有力者の館と考えられます。



【掘立柱建物】 ※7区

掘立柱建物は、東西4.4m、南北4.2mの大きさです。これまでにみつかった掘立柱建物や溝とは、方位が異なっています。建物の時期は、出土遺物から14世紀以前で、他の建物と比べると古いものと考えられます。



【区画溝】と【溝1・溝3】 ※2区・3区

溝1は、長さ100m以上、幅4.5m以上、深さ1m以上の大きなものです。溝の底は南に行くほど深くなっています。15世紀後半頃にはかなり埋まっていますが、17世紀～18世紀ごろに再掘削されています。

溝3は、幅0.9～1.5mで深さは0.6m以上あります。溝の底は西に行くほど深くなっています。溝が埋まった時期は、出土遺物から15世紀後半頃（室町時代）と考えられます。



【溝2】 ※5区・6区

溝2は、長さ50m以上、幅4.0m、深さ0.9m以上の大きなものです。溝の底は西に行くほど深くなっています。溝1と同様、15世紀後半頃にはかなり埋まっていますが、17世紀～18世紀ごろに再掘削されています。

溝の底には水が溜まっていたような痕跡が確認できました。

